



## 平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年11月2日

上場会社名 塩野義製薬株式会社

コード番号 4507 URL <http://www.shionogi.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 手代木 功

問合せ先責任者 (役職名) 広報部長

(氏名) 高木 浩樹

TEL 06-6202-2161

四半期報告書提出予定日 平成24年11月9日

配当支払開始予定日

平成24年12月3日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	137,322	10.7	26,106	43.1	25,095	36.2	14,863	81.2
24年3月期第2四半期	124,000	△13.5	18,239	△5.1	18,429	4.1	8,203	19.5

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 10,577百万円 (—%) 24年3月期第2四半期 △52百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	44.38	44.36
24年3月期第2四半期	24.50	24.49

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
25年3月期第2四半期	512,684		351,149		67.9	
24年3月期	522,161		347,198		65.9	

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 348,042百万円 24年3月期 344,216百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
25年3月期	—	20.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	20.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	283,000	5.9	56,000	19.1	54,000	17.2	32,000	18.1	95.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(注)当四半期連結累計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(注)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 有

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、四半期決算短信[添付資料]P.4「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 (3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期2Q	351,136,165 株	24年3月期	351,136,165 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

25年3月期2Q	16,234,094 株	24年3月期	16,240,245 株
----------	--------------	--------	--------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期2Q	334,900,195 株	24年3月期2Q	334,897,709 株
----------	---------------	----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信[添付資料]P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	9
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	10
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間の国内医薬品業界におきましては、平成24年4月に業界平均6%の薬価改定が施行され、市場環境はますます厳しくなりました。また、海外におきましても革新的な新薬を生み出さなければ生き残れない状況にあります。

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上面では、医療用医薬品において、戦略品の薬価改定の減少分をカバーし1.2%の増となりました。また、米国子会社のシオノギINC.の売上高においても引き続き安定的に推移しており、多大な売上控除を計上した前年同期から大きく改善し、中国子会社のC&OファーマシューティカルテクノロジーホールディングスLtd.（以下C&O社）も連結売上高に寄与しました。一方、ロイヤリティー収入は減少となりました。この結果、全体の売上高は1,373億22百万円で前年同期に比べ10.7%の増加となりました。

一方、利益面におきましては、薬価改定による医療用医薬品の収益性の悪化やロイヤリティー収入の減少などのネガティブ要素もありましたが、シオノギINC.の前年同期からの大幅改善に加え、減価償却方法の変更による原価低減要素もあり、売上総利益は12.3%の増加となりました。また、販売費及び一般管理費につきましては4.1%の増加にとどめられたため、当第2四半期連結累計期間の営業利益は261億6百万円で前年同期比43.1%の増加となり、経常利益も250億95百万円で前年同期比36.2%の増加となりました。なお、四半期純利益は148億63百万円となり、前年同期にシオノギINC.における特別損失の発生もあったことから、81.2%の大幅増益となりました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

#### 1. 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は5,126億84百万円で、前連結会計年度末と比べて94億77百万円減少しました。流動資産は、受取手形及び売掛金や原材料及び貯蔵品の減少などにより、前連結会計年度末より35億77百万円少ない2,373億54百万円となりました。固定資産は、前連結会計年度末より59億円減少し、2,753億30百万円となりました。

負債合計は1,615億34百万円で、前連結会計年度末と比べて134億28百万円減少しました。流動負債は、100億円の普通社債の償還がありましたが、支払手形及び買掛金の増加などにより、前連結会計年度末より33億67百万円少ない786億96百万円となりました。固定負債は、長期借入金の減少などにより、前連結会計年度末より100億61百万円少ない828億38百万円となりました。

純資産合計は3,511億49百万円で、前連結会計年度末と比べて39億51百万円増加しました。株主資本は、四半期純利益の計上や配当金の支払などにより、前連結会計年度末より81億72百万円増加し、3,836億8百万円となりました。その他の包括利益累計額は、主に為替の変動による為替換算調整勘定の減少などにより、前連結会計年度末より43億45百万円少ない△355億66百万円となりました。また、新株予約権は64百万円、少数株主持分は60百万円のそれぞれ増加となりました。

#### 2. キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間の「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、329億75百万円の収入になりました。

主な内訳は、税金等調整前四半期純利益247億83百万円、減価償却費59億62百万円、仕入債務の増加42億円などによる収入や、法人税等の支払額92億22百万円などによる支出で、前年同期比96億61百万円の収入増でした。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、有形固定資産の取得による支出などにより、88億53百万円の支出となり、C&O社の株式取得のあった前年同期に比べますと164億88百万円の支出減でした。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、長期借入金の返済70億円、配当金の支払66億88百万円及び社債の償還による支出100億円などにより238億29百万円の支出となり、前年同期に比べ99億94百万円の支出増でした。

これらを合わせた当第2四半期連結累計期間の「現金及び現金同等物の増減額」は3億64百万円減となり、当第2四半期連結会計期間末の「現金及び現金同等物の四半期末残高」は、983億22百万円となりました。

## (3) 連結業績予想に関する定性的情報

最近の業績動向を踏まえ、平成24年5月9日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

## 1. 連結業績予想の修正

平成25年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益(円)
前回発表予想 (A)	289,000	56,000	54,000	32,000	95.55
今回発表予想 (B)	283,000	56,000	54,000	32,000	95.55
増減額 (B-A)	△6,000	—	—	—	—
増減率 (%)	△2.1	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成24年3月期)	267,275	47,003	46,093	27,101	80.93

## 2. 業績予想の修正理由

平成25年3月期下期におきましては、ドリペネムの輸出、サインバルタの製造受託、ロイヤリティー収入など、当初予測からは減少を見込んでおり、売上高につきましては通期で60億円程の減収となる見込みです。利益面につきましては、原価面での改善が見込めること、インテグレース阻害薬につきましてはグラクソ・スミスクライン社（英国）／V i i Vヘルスケア社（英国）との合弁事業に関する枠組みの変更により研究開発費の減額が見込めることによりまして、営業利益及び経常利益の通期見込みに変更はありません。なお、前述の枠組み変更に伴い、特別利益の計上が見込まれますが、一方、のれん及び無形固定資産のその他（販売権）の評価の見直しを行い、一定規模の特別損失の計上を見込んでおります。予想策定時においては金額が確定しておりませんので、当期純利益につきましては当初予定どおりとしております。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当する事項はありません。

### （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当する事項はありません。

### （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（有形固定資産の減価償却方法の変更）

当社グループは、有形固定資産の減価償却方法について、従来、主として定率法を採用していましたが、第1四半期連結会計期間より定額法へ変更しております。

当社グループでは、2010年度からの第3次中期経営計画において、従来型の販売初期に急激な伸びを見せる製品を中心とする体制から、長期安定的な収益が見込める戦略8品目を中心とした体制に転換して着実に成長すること、またグローバル展開においては、新薬開発のグローバル化を目指して米欧亜における拠点整備を進めることを基本戦略として掲げております。

上記戦略8品目の販売拡大を目指して取り組んだ製造設備の集中・増強（固形製剤棟の建設、打錠・造粒設備等の増強など）がほぼ整ったことに加え、戦略8品目の売上高の国内医療用医薬品の売上高に占める割合が当連結会計年度に初めて50%を超える見込みであり、今後もその割合は増加することが見込まれていることと、英国に設立した連結子会社シオノギLtd. が当連結会計年度に事業を開始することで米欧亜の拠点整備が実現したことを契機に、有形固定資産の減価償却方法を見直した結果、以下の理由から定額法に変更することが当社グループの実態をより適正に表すものと判断いたしました。

①従来の販売初期に急激な伸びを見せ比較的早期に設備投資額の回収に繋がる製品を中心とする体制から、長期安定的な収益を見込める戦略8品目を中心とする体制に移行することにより、設備の稼働についてもより平準化、安定化が見込めること。

②在外連結子会社については従来より主として定額法を採用しており、日米欧亜の拠点が一体となってより効率的かつ効果的に経営資源を配分し、グローバルな研究開発・生産・販売体制の構築及び維持管理に資するようになるためには、グループ会計方針を定額法に統一することが必要であること。

この変更により、従来の方法によった場合に比べて、当第2四半期連結累計期間の売上総利益は225百万円、営業利益は1,399百万円、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ1,428百万円増加しております。

#### （追加情報）

連結子会社の事業年度等に関する事項の変更

当連結会計年度より、台湾塩野義製薬（股）は、決算日を12月31日から3月31日へ変更いたしました。この変更により、平成24年1月1日から平成25年3月31日までの15ヶ月決算となっております。この決算期変更に伴い、当第2四半期連結損益計算書は、同社の平成24年1月1日から平成24年9月30日までの9ヶ月間を連結しております。同社の平成24年1月1日から平成24年3月31日までの内部取引消去後の、売上高は382百万円、営業利益は144百万円、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ148百万円であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,427	15,668
受取手形及び売掛金	65,568	63,602
有価証券	86,556	88,763
商品及び製品	26,040	25,811
仕掛品	12,662	13,041
原材料及び貯蔵品	11,418	9,936
その他	20,275	20,540
貸倒引当金	△17	△10
流動資産合計	240,931	237,354
固定資産		
有形固定資産	74,282	77,392
無形固定資産		
のれん	63,572	59,880
その他	43,121	39,351
無形固定資産合計	106,694	99,231
投資その他の資産		
投資有価証券	63,568	62,348
その他	36,783	36,439
貸倒引当金	△97	△81
投資その他の資産合計	100,253	98,706
固定資産合計	281,230	275,330
資産合計	522,161	512,684
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,613	12,800
1年内返済予定の長期借入金	14,000	14,000
1年内償還予定の社債	10,000	—
未払法人税等	9,891	10,885
賞与引当金	6,745	6,999
返品調整引当金	5,356	5,778
その他の引当金	25	—
その他	27,430	28,232
流動負債合計	82,063	78,696
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	49,000	42,024
退職給付引当金	8,793	8,891
その他	15,106	11,921
固定負債合計	92,899	82,838
負債合計	174,963	161,534

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	21,279	21,279
資本剰余金	20,227	20,227
利益剰余金	353,676	361,840
自己株式	△19,746	△19,738
株主資本合計	375,436	383,608
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,729	7,922
繰延ヘッジ損益	△141	429
為替換算調整勘定	△38,809	△43,917
その他の包括利益累計額合計	△31,220	△35,566
新株予約権	58	123
少数株主持分	2,923	2,983
純資産合計	347,198	351,149
負債純資産合計	522,161	512,684

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	124,000	137,322
売上原価	37,523	40,213
売上総利益	86,476	97,109
販売費及び一般管理費	68,237	71,003
営業利益	18,239	26,106
営業外収益		
受取利息	213	185
受取配当金	663	622
その他	1,207	304
営業外収益合計	2,085	1,112
営業外費用		
支払利息	667	605
寄付金	669	664
その他	558	853
営業外費用合計	1,894	2,123
経常利益	18,429	25,095
特別利益		
固定資産売却益	509	228
投資有価証券売却益	152	551
特別利益合計	661	779
特別損失		
投資有価証券評価損	142	1,091
減損損失	1,570	—
違約金損失	1,187	—
災害による損失	1,089	—
事業構造改善費用	546	—
特別損失合計	4,536	1,091
税金等調整前四半期純利益	14,554	24,783
法人税、住民税及び事業税	9,216	10,278
法人税等調整額	△2,865	△382
法人税等合計	6,350	9,896
少数株主損益調整前四半期純利益	8,203	14,887
少数株主利益	—	24
四半期純利益	8,203	14,863

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	8,203	14,887
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△846	192
繰延ヘッジ損益	509	570
為替換算調整勘定	△7,919	△5,072
その他の包括利益合計	△8,256	△4,309
四半期包括利益	△52	10,577
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△52	10,517
少数株主に係る四半期包括利益	—	60

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	14,554	24,783
減価償却費	7,183	5,962
減損損失	1,570	—
のれん償却額	1,610	1,874
災害損失引当金の増減額 (△は減少)	△1,117	—
受取利息及び受取配当金	△877	△807
支払利息	667	605
為替差損益 (△は益)	29	359
売上債権の増減額 (△は増加)	5,283	1,860
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△2,941	1,229
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,230	4,200
その他	7,596	1,898
小計	34,790	41,967
利息及び配当金の受取額	890	810
利息の支払額	△622	△579
法人税等の支払額	△11,743	△9,222
営業活動によるキャッシュ・フロー	23,314	32,975
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△2,499	△4,157
定期預金の払戻による収入	1,653	4,425
有価証券の取得による支出	△19	△19
有価証券の売却及び償還による収入	2,085	2,020
有形固定資産の取得による支出	△9,379	△5,726
有形固定資産の売却による収入	3,740	460
無形固定資産の取得による支出	△10,363	△2,896
投資有価証券の取得による支出	△4,178	△4,949
投資有価証券の売却による収入	4,177	2,191
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△10,584	—
その他	25	△201
投資活動によるキャッシュ・フロー	△25,342	△8,853
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△7,000	△7,000
社債の償還による支出	—	△10,000
配当金の支払額	△6,687	△6,688
その他	△147	△140
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,835	△23,829
現金及び現金同等物に係る換算差額	△927	△657
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△16,790	△364
現金及び現金同等物の期首残高	110,691	98,687
現金及び現金同等物の四半期末残高	93,900	98,322

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当する事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当する事項はありません。